

縮小社会研究会 第78回研究会



第78回研究会を下記の要領で開催します。今回は現地とオンラインの両方で参加できます。

日時：2024年3月16日（土） 15:30～17:30

会場：同志社大学烏丸キャンパス・志高館112教室

https://www.doshisha.ac.jp/information/imadegawa/karasuma_map/index.html#campusmap

オンライン（zoom）

<https://us06web.zoom.us/j/83983938632?pwd=9zQPq6bQQ5SPcYXyKtiXgorgVJna1U.1>

パスワード: 399101 ミーティング ID: 839 8393 8632

15:30～16:30 縮小社会への道のり：エコロジカル・フットプリントの応用可能性

講師：和田喜彦さん（同志社大学教授）

講演要旨：化石燃料の消費を減らし、脱炭素を進めさえすれば、経済成長を維持しつつ持続可能な社会を構築できると考える学者は多い。しかし、化石燃料代替の再生可能エネルギーも種類によっては、エコロジカル・フットプリント（EF）を増大させるし、レアアースなどの鉱物資源需要を増加させ、EFを増大させる。原子力エネルギーは、被曝リスク、避難困難性、国富減損、軍事転用可能性、世代間不公平性など様々な観点からSDGs達成の妨げとなる。本発表では、技術万能論をEFなどのエコロジー経済学の観点から検証し、1) 人類のエコロジカル・フットプリントと経済規模の緩やかな縮小、同時に人間開発指数（HDI）の向上を今世紀の世界目標とする、2) 累進的な縮小幅の割り当て（国別、国内所得水準別）を平和的に受け入れる。この2つが持続可能な人類の未来を切り開く希望の光であると主張したい。

16:30～17:00 合意形成過程の機能不全を考える

講師：谷 誠さん（京都大学名誉教授）

講演要旨：3.11震災時の福一爆発、能登地震での志賀原発近接の珠洲原発計画地の地盤4m隆起を経験しても、国は原発機継方針を堅持している。だが推進派の多くも、本心では安全性を保つことは科学的に不可能だと認識していて、だからこそ、責任回避のために推進せざるを得ないという袋小路に陥っているとみられる。よってその全廃には、科学的論争だけでは不十分で、合意形成機能不全の改善や外圧による強制が必要だと考える。

17:00～17:30 未来社会への議論を！

講師：青野豊一さん（農業）

講演要旨：未来社会の議論は、理想社会を空間的に今の資本主義社会の外部で建設しようとする宗教団体のそれではなく、そしてマルクス主義的な遠き未来への時間的な外に見出すことでもない。いわば、現在のこの時点において、この日々の生活の内部において見出そうとするものでなくてはならない。だから、既存の体制を丸ごと取り換えようとするのではない。むしろ、日々の細かな日常的な事から始まるものなのだ。

参加費：会員は無料、非会員は500円

参加登録：会員は不要。非会員の方は松久（h.matsuhisa@shukusho.org）まで連絡願います。

懇親会を18時より烏丸今出川のイーサン（タイ料理 <https://www.esan.jp/menu/>）で開催します。会費は3000円程度。先着30名まで。参加申込の締め切りは2月25日。参加希望者は松久まで連絡願います。

当日14時より縮小社会研究会の第12回総会を開催します。